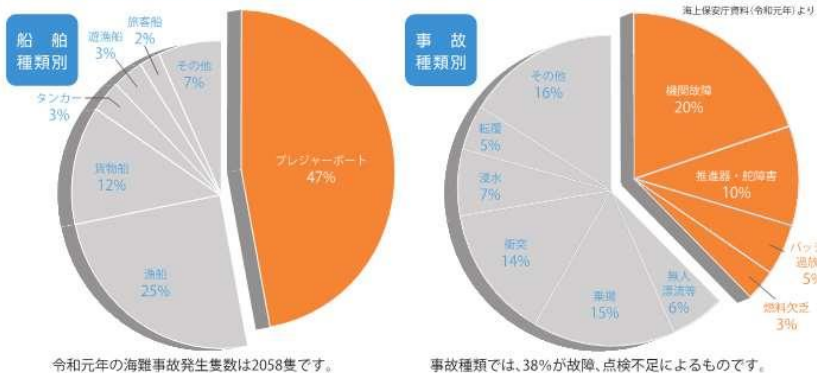


## プレジャーボートの安全運航のために

# 海難事故の3分の1以上が故障や点検不足によるものです

海難事故はプレジャーボートが全体の47%を占めています。プレジャーボートの海難事故の38%が故障や点検不足によるものです。これらはメンテナンスや発航前検査で十分に防止が可能です。

### プレジャーボート事故発生状況 (令和元年) 合計970隻



- STEP 01** 中古艇は特に整備が重要です。
- STEP 02** 定期的なメンテナンス、発航前検査を実施しましょう。
- STEP 03** 整備は機関メーカー指定の業者に依頼しましょう。
- STEP 04** 発航前検査の義務違反は行政処分の対象となります。

### プレジャーボートの安全運航のため、以下のガイドをご利用ください。

#### 日本小型船舶検査機構

エンジン種類別に、日常的に行っていたきたい点検・整備のポイントをわかりやすくまとめています。

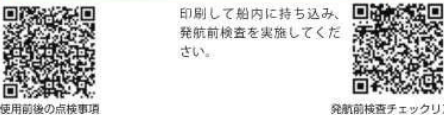
#### メンテナンスガイド JCI



#### 日本マリン事業協会

艇体の取扱説明書から、使用(航海)前後の点検の部分を抜粋したものがご覧いただけます。

#### 日本マリン事業協会



実際に海難事故に遭ったユーザーに実施したアンケート調査から、多い要因とその注意事項を以下に記します。

#### 燃料系

油水分離器にたまった水や、燃料フィルタの目詰まりに注意しましょう。



燃料の残量を確認しましょう。

燃料計の過信は禁物です。日頃の燃料消費率、給油量を把握しましょう。



#### 始動系

バッテリーの電圧、液量を点検しましょう。

バッテリーは定期的に変更しましょう。

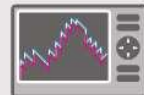


出典元：(一社)電池工業会

主機停止中には電気機器を使用しないようにしましょう。

例：釣り中：魚群探知機使用

例：花火見物中：室内灯、室外灯点灯



#### 冷却系

海水ポンプインペラの損耗に注意しましょう。

海水ポンプインペラは定期的に変更しましょう。船外機の場合、検水口からの水の出方が悪くなります。



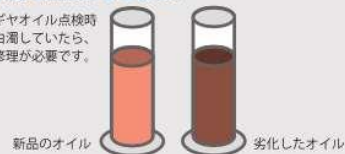
Vベルトの張り具合、摩耗、ひび割れなどを点検しましょう。



#### 機関系

エンジンオイル・ギヤオイルの量と状態を点検しましょう。

ギヤオイル点検時白濁していたら、修理が必要です。



コントロールケーブルの操作力、がたつき、錆びなどを点検しましょう。

ケーブル露出部の割れ、錆び。



#### 定期交換時期

下記は目安です。詳しくは、搭載機関の取扱説明書に従いましょう。

項目	交換頻度	項目	交換頻度
ディーゼルエンジン		船外機	
燃料フィルタエレメント	600 時間毎	燃料フィルタエレメント	200 時間又は 2 年毎
エンジンオイル	200 時間毎	エンジンオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
オイルフィルタ	200 時間毎	オイルフィルタ	200 時間又は 2 年毎
冷却水	600 時間毎	ギヤオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
防食金属	半減したら交換	防食金属	半減したら交換
Vベルト	異音、摩耗等必要に応じ交換	ウォーターポンプインペラ	1 年毎
共通			
バッテリー	3 年毎		
コントロールケーブル	2 年～ 5 年毎 (使用頻度による)		



(一社)日本マリン事業協会  
Japan Marine Industry Association

JCI 日本小型船舶検査機構  
Japan Craft Inspection Organization

国土交通省

JCG 海上保安庁